

8-11

保険者のサービス提供体制構想と高齢者生活支援

一府中市立第1エリア担当拠点施設あさひ苑の取り組み

サービス提供体制構想

高齢者生活支援

ふちゅうしりつ えん
府中市立あさひ苑

Ph.D./法人 Supervisor 金善英（私 リヨウ）

東京都府中市朝日町3-17-1

TEL 042-369-0080

E-mail : asahi@tama-dhk.or.jp

FAX 042-364-4683

URL : <http://www.tama-dhk.or.jp/asahi/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

府中市立あさひ苑は社会福祉法人多摩同胞会が市の委託を受けて平成5年に開設。公設の施設として特別養護老人ホームと高齢者在宅サービスセンター、在宅介護支援センターを運営している。

〈取り組んだ課題〉

府中市はかつて市内を6つのエリアわけで高齢者生活支援サービスの提供体制を構築していた。本発表施設は6つのエリアのなか、第1エリアを担当していて、特別養護老人ホーム、在宅介護支援センター、高齢者在宅サービスセンター、居宅介護支援センターを根幹にしてデイサービス、ショートステイサービス、ホームヘルプサービスを開設当時から現在に至るまで提供しつづけている。

主な取り組みとしては、市民の安全や安心を守る市立施設として在宅での生活支援と各種相談をはじめ、在宅ができなくなった高齢者への入所サービスに至るまで、公的サービスのあり方について意識しながら、市民に還元できるサービス提供のあり方を課題にし、その経過について介護保険制度実施前後の施策にそって活動報告をする。

〈具体的な取り組み〉

①2000年4月～2003年3月

- ・要介護認定結果が非該当者の生活維持、支援事業
→訪問介護、地域デイ、訪問食事、外出支援
- ・第1エリアの一人暮らし高齢者の相談事業

②2003年4月～2006年3月

- ・一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯の見守りネットワーク構築
- ・高齢者の様態や生活様子に関する情報の共有、サービスの連携→市と相談内容の共有で困難ケースや地域での生活様子の共有に積極的に取り組む

③2006年4月～現在

- ・介護ニーズの再確認と身体介護以外の生活支援サービスニーズ把握と支援事業の連携

〈活動の成果と評価〉

①成果

- 府中市内のエリア構想により高齢者の生活支援が成り立ったことが評価され、制度改正で掲げている「生活圏域」として継続した仕組みになった。
- 市直営の包括支援センターを中心に各エリアの在宅介護支援センターがそれぞれの役割を分担することにより、保険者機能と地域圏域の提供サービスの役割がより鮮明になってきた。

②評価

高齢者の生活環境に密着したサービス基盤が構築しやすい環境を継続して維持可能になったため、保険者の取り組みが市民のニーズを取り入れやすい姿勢が保たれたことを高く評価する。

〈今後の課題〉

高齢者生活支援においてどのようなサービスは普遍的で共通に必要なとされるサービスで、どのようなサービスが個々人の特殊な現状に応じたサービスかを考察しながら、「介護保険制度の給付サービス」として提供すべくサービスと「社会福祉サービス」として提供すべくサービスの整理することを大きな課題とする。

日々の接し方や高齢者との関わりにこのような区分はあえて必要なく、「社会福祉サービス提供者」として何の不自由もなかったかもしれない。しかし大きな柱になった介護保険制度は共通リスクとして位置づけられる給付枠と個別リスクとして位置づけられるサービス枠が混在していて、今後の高齢者生活支援を継続していくためには生活実態を共有し、改善に向かって試みたい。

〈参考資料など〉

※府中市第1期～第3期介護保健福祉事業計画